

アスパラガス栽培方法

苗植えつけ5月

1 栽培のポイント

主要品種：ウエルカム
生育適温は15～20℃である。30℃以上では生育が衰え、5℃以下では休眠に入る。深根性のため、地下水位が低く、排水のよい土壌がよい。そのため、定植前の土づくりが重要(土壌の深耕による排水対策、完熟たい肥の投入による物理性の改善)である。土壌が乾燥すると生育が衰えるため、土壌はやや多湿状態で管理することが好ましい。病害予防のため薬剤散布を徹底する。

2 畑の準備

十分な管理を行えば、10年以上収穫できるので、定植前の土づくりは十分行う。
定植前年の秋から冬にかけて、30cm以上深耕し排水をよくする。
1aあたり完熟たい肥300 kg、炭酸苦土石灰(粒)10kgを散布してよく混和しておく。
翌春、過磷酸石灰(粒)10kgを施用し、幅2m、高さ30cm以上の畝を立て、畝面に野菜いちばん20kgを散布し軽く耕す。

3 1年目の管理

霜が降りる心配がなくなる4月下旬～5月上旬に、株間50cmで2条千鳥植えにする。
苗は、芽が3cm隠れる深さに植え付け、その後十分かん水する。
雑草対策として黒色ポリフィルムをマルチングして定植する(2年目の春までには取り除く)。
1年目は、株養成の年なので、収穫せずに全て立茎するが、8月中旬以降に伸びた茎、細すぎる茎、病茎は取り除く。また、かん水をこまめに行い、風通しをよくし病害虫防除を徹底する。支柱を立ててネットやひもを張り、茎が倒伏しないようにする。冬に地上部が枯れたら刈り取る。

4 肥料

施肥例(kg/a)

肥料名	基肥	追肥	備考
炭酸苦土石灰(粒)	10		追肥は6～9月の間に、2kg/回を3～5回分施する。
野菜いちばん	30		
過磷酸石灰(粒)	10		
S604		6～10	

5 2年目以降の管理

3月に基肥を畝表面に施し、軽く混和する。
マルチとして完熟たい肥300kgを施用する。
春、萌芽してきた若茎は全て収穫する。
約1ヶ月収穫した後、立茎(収穫をやめ、親茎を立てる)をする。
太さ1cm程度の茎を1株あたり4～6本確保し、残りの若茎は収穫する。
図のように、下枝を取り除き、通風と採光をよくする。
また葉が完全に展開したら、高さ140cm程度で先端を摘心する。摘心後に発生するわき芽は取り除く。
かん水をしっかり行い、収量にあわせて追肥を行う。
冬期地上部が黄化し、茎が枯れてから刈り取りを行いほ場外へ持ち出す。

6 収穫調整

若茎が25～28cmになったころ、ハサミで地際部から切りとる。

7 病害虫対策

病気 茎枯病、斑点病が発生する。
茎枯病はアスパラガスの主要な病気である。予防防除に努め、発病後は早期に茎を取り除く。病原菌の越冬を減らすため、茎を刈り取った後に畝面をバーナーで焼却する。
害虫 スリップス類、ジュウシホシクビナガハムシ、ヨトウムシ類が発生するので発生初期に防除する。

